

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：35416

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K19198

研究課題名（和文）看護職協働による緊急入院高齢患者の入退院支援における家族支援ガイドラインの開発

研究課題名（英文）Development of family support guidelines for emergency admission and discharge support for elderly patients in collaboration with nursing staff

研究代表者

神崎 匠世（KANZAKI, Naruyo）

広島都市学園大学・健康科学部・准教授（移行）

研究者番号：20457485

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、緊急入院高齢患者の入退院支援を担う外来看護師、病棟看護師、訪問看護師を対象に、それぞれの家族支援への役割認識を明らかにし、患者・家族の安心できる療養生活に向けた家族支援ガイドラインを開発することを目的とした。そこで、緊急入院高齢患者の入退院支援における家族支援に関する看護職協働の実践内容を明確化するため自記式質問紙調査と半構造化面接を行い、その結果をもとに実践的な方策となる項目を抽出し、緊急入院高齢患者の入退院支援における家族支援ガイドライン（案）の作成を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により、病棟看護師、訪問看護師、外来看護師の家族支援では、それぞれの専門性を発揮した特徴がみられるとともに、主に情報共有というかたちで看護職協働が行われていたことが示された。また、同一職種であるからこそ連携の強みになるとともに、認識の違いや情報共有不足が入退院支援の課題につながることも明らかとなった。今回のガイドライン案の作成により、退院困難な要因である緊急入院高齢患者における看護職間の協働を目指した実践的な家族支援につながると考える。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to clarify the role recognition of outpatient nurses, ward nurses, and visiting nurses who are responsible for the admission and discharge support of elderly patients admitted to the hospital on an emergency basis, and to develop family support guidelines for patients and their families to live a recuperative life with peace of mind. To clarify the practical content of nursing collaboration regarding family support in admission and discharge support for elderly patients admitted to the hospital on an emergency basis, we conducted a self-administered questionnaire survey and semi-structured interviews, extracted items that can be used as practical measures based on the results, and created a draft guideline for family support in admission and discharge support for elderly patients admitted to the hospital on an emergency basis.

研究分野：家族看護学

キーワード：家族支援 入退院支援 看護職協働 高齢者 緊急入院

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

わが国では超高齢社会の進展により高齢世帯の増加、家族介護力の低下など、退院後の療養生活を送るために在宅医療・介護サポートを要する高齢者は増えている。そのため地域移行後も療養生活が継続できるように、入院早期から生活を見据えた支援が求められている。診療報酬制度における評価も進み、2008年改定時の退院調整加算の新設、退院困難な患者を早期に抽出し支援する入退院支援の充実へと進化し、2018年には退院支援から入退院支援へと名称が見直された。退院困難な要因の一つに緊急入院が挙げられる(厚生労働省, 2018)。高齢患者には外来受診直後の入院や病状悪化による緊急入院のケースが多く、早急な検査や治療を要するため家族との意思疎通や入院前の情報入手が困難になる場合も少なくない。生活を見据えた入退院支援には、患者のみならず家族の思いを尊重したニーズを捉え早期に関係職種と連携・協働した支援が必要となる。こうした状況から、入退院支援において患者・家族に身近に関わる外来看護師、病棟看護師、退院調整看護師、訪問看護師が協働して支援することは重要である。今回の研究では、退院困難な要因である緊急入院高齢患者の入退院支援における家族支援への看護職の役割認識を明らかにする必要があると考えた。看護職の協働による入退院支援時の家族支援のための実践的な方策については明らかになっていない。本研究では、緊急入院高齢患者の入退院支援における外来、病棟、退院支援、訪問看護の、異なる立場の看護師の家族支援への役割認識を明確にし家族支援ガイドラインの作成が必要であると考えた。

### 2. 研究の目的

本研究では、緊急入院高齢患者の入退院支援を担う外来看護師、病棟看護師、退院支援看護師、訪問看護師を対象に、それぞれの家族支援への役割認識を明らかにし、患者・家族の安心できる療養生活に向けた家族支援ガイドラインを開発することを目的とする。

### 3. 研究の方法

本研究では主に以下2つの研究を行った。

研究1) 緊急入院高齢患者の入退院支援における看護職協働による家族支援の明確化

#### (1) 調査項目の抽出

まず、緊急入院高齢患者の入退院支援、家族支援への看護職の役割認識、看護職協働の現状や課題等を明らかにするため文献検討を行った。医学中央雑誌Web版を用いて、2011年~2020年までの10年分について、高齢者、退院支援、家族、退院調整、入退院支援をキーワードとして検索を行った結果、得られた文献のうち16文献を用いて検討した。文献検討の結果をもとに、高齢者看護の専門家から助言を受けながら検討を重ね、24項目の調査項目を設定した。

#### (2) 自記式質問紙調査

文献検討から得られた24項目を用いて作成した自記式質問紙調査票を活用して、緊急入院高齢患者の入退院支援における家族支援に関する看護職協働の実践内容を明確化するため、病棟看護師、外来看護師、訪問看護師を対象に自記式質問紙調査を行い、協力の得られた看護師176名から回答を得た。

研究2) 緊急入院高齢患者の入退院支援における家族支援への病棟看護師、外来看護師、訪問看護師の役割認識と実践の解明

#### (1) インタビュー調査

まず入退院支援の経験豊富な病棟看護師1名を対象に、入退院支援における家族支援にどのような役割認識を持ち、実際にどのような協働を行っているか聞き取り調査を行い、その結果をもとにインタビューガイドの作成を行った。作成したインタビューガイドに基づき、病棟看護師2名、外来看護師2名、訪問看護師4名を対象に半構造化面接を実施した。尚、当初の計画にあった退院支援看護師については、新型コロナウイルス感染症の影響によりリクルートにも難航を極めたため調査対象から除外し、外来看護師、病棟看護師、訪問看護師を対象とした調査・分析を進めることとした。

インタビューでは、高齢患者の入退院支援における家族支援について看護師として実施したことを自由に語ってもらった。インタビューの所要時間は30~45分程度とし、対象者の同意を得てICレコーダーにて録音した。インタビューで得られたデータは質的帰納的に分析した。インタビューの内容から逐語録を作成した。逐語録を繰り返し読み、家族支援に関する記述を抽出し、その意味内容を損なわないようにコード化した。次にデータの文脈の意味を確認しながらコードの類似性に基づいてサブカテゴリーを抽出した。さらに共通しているサブカテゴリーをまとめてカテゴリーを抽出した。コード、サブカテゴリー、カテゴリー生成の整合性については、臨床看護分野の研究者とともに確認し、研究の信頼性の確保につとめた。

### 4. 研究成果

1) 緊急入院高齢患者の入退院支援における看護職協働による家族支援の明確化

自記式質問紙調査の質問項目では、「十分実施している」を4点、「実施している」を3点、

「あまり実施していない」を2点、「実施していない」を1点として得点化し、天井効果とフロア効果を確認した上で、緊急入院高齢患者の入退院支援における看護職協働による家族支援について構成因子の構造を明らかにするため探索的因子分析を実施した。因子数はスクリープロット基準結果から判断し、主因子法、プロマックス回転を用いて因子負荷量0.35以上の項目を採用基準とした。質問項目の信頼性はCronbach係数を算出し、標本妥当性はKMO(Kaiser-Meyer-Olkin)とBartlettの球面性検定で確認した。因子分析の結果、3つの因子が抽出され、第1因子：家族の状況に配慮した看護職協働による入退院支援、第2因子：安定した在宅療養生活の継続に向けた看護職協働による入退院支援、第3因子：関係看護職との協働による入退院支援とした。

## 2) 緊急入院高齢患者の入退院支援における家族支援への病棟看護師、外来看護師、訪問看護師の役割認識と実践の解明

緊急入院高齢患者の入退院支援における病棟看護師の家族支援では、【患者・家族の情報共有】【家族状況を把握し院内外の関係者とつなぐ】【家族とパートナーシップを形成する】【患者・家族に合わせた具体的な退院準備】の4つのカテゴリーが抽出された。

訪問看護師の家族支援では、【患者・家族の在宅療養生活をイメージした関わり】【安定した在宅療養生活の継続に向けた情報共有】【入退院支援時の看護職間連携】【入退院支援への課題】の4つのカテゴリーが抽出された。

外来看護師の家族支援では、【在宅療養生活の視点に立った支援】【家族との関わりを重視した支援】【看護職連携による情報共有】【家族支援の困難さ】の4つのカテゴリーが抽出された。

## 3) 緊急入院高齢患者の入退院支援における家族支援ガイドライン(案)の作成

1)で実施した自記式質問紙調査の分析結果と、2)のインタビューデータの分析結果をふまえ、看護職協働による入退院支援時の家族支援のための実践的な方策となる項目を抽出し、緊急入院高齢患者の入退院支援における家族支援ガイドライン(案)の作成を行った。

具体的な方策項目として、「家族の状況に配慮した看護職協働による入退院支援」では、<外来の待ち時間を利用して家族から情報収集する>、<話しやすい雰囲気をつくり家族と関係構築する>、<退院への家族の不安を聞き出す>、<家族が必要とする介護情報のニーズを把握する>、<家族間で抱える問題を把握する>、<在宅療養支援に向けて家族と協働する視点を持つ>、<高齢患者の病状など連絡の機会を増やし家族の理解を促す>、<リハビリテーション見学などを通して家族に高齢患者の現状を理解してもらい介護の不安を明確にする>、<高齢患者および家族双方の気持ちを理解し意思決定支援を行う>、<退院前訪問により家族と情報共有する>、<起こりうる事態を予測して家族と共有する>、<必要時、地域の専門職と連携して家族支援する>を挙げた。

「安定した在宅療養生活の継続に向けた看護職協働による入退院支援」では、<支援目標に対して看護職間で共通の認識を持つ>、<高齢患者の地域での自立を目指して支援する>、<高齢患者のADLを在宅環境に合わせて細かく把握する>、<在宅療養環境の安全に配慮する>、<退院前カンファレンスにて家族の意見を引き出す>、<高齢患者の現状を家族に見てもらいながら必要な福祉用具など環境を整える>、<必要な福祉サービス関係者と家族との橋渡しをする>を挙げた。

「関係看護職との協働による入退院支援」では、<看護職間のコミュニケーションで連携を強化する>、<得た情報はチーム内で必ず共有する>、<連携相手の理解度を確認しながら情報伝達を行う>、<各看護職が共通した支援目標に向けた関わりができていくかその都度確認する>、<高齢患者の全体像が把握できるように情報共有ツールを活用する>、<家族の介護体制について病棟・外来・訪問看護師が共有する>、<家族が困らないように退院前から医療処置の手技について病棟・外来・訪問看護師が共有する>、<治療方針や緊急時の受け入れについて病棟・外来・訪問看護師が共有する>、<急な退院の場合でも高齢患者の情報について病棟・外来・訪問看護師が共有する>、<病棟・外来・訪問看護師の情報共有の機会をつくる>、<各看護職が互いの役割を尊重しながら情報共有する>、<訪問看護師から外来・病棟看護師へフィードバックし情報共有する>を挙げた。

## 4) 今後の課題

本研究では、家族支援ガイドラインの作成案の段階にとどまったため、今後は緊急入院高齢患者の入退院支援を実践しているそれぞれの現場で、外来看護師、病棟看護師、訪問看護師に実際にガイドラインを活用してもらい意見を求め、さらに具体的な方策としての必要な追加・修正を行っていくことが必要である。これらを通してガイドライン案のブラッシュアップにより、実践的な家族支援ガイドラインを作成していくことが必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 神崎匠世	4. 巻 8(1)
2. 論文標題 高齢患者の入退院支援を行う看護師の家族支援に関する文献検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 健康科学と人間形成	6. 最初と最後の頁 21-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 神崎匠世, 後藤淳, 鈴木智子, 松脇喜久美
2. 発表標題 訪問看護師による高齢患者の入退院支援における家族支援
3. 学会等名 日本家族看護学会第30回学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 神崎匠世
2. 発表標題 緊急入院高齢患者の入退院支援における家族支援に関する研究
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------